



# 宗 像

## 12月祭事暦

- 毎月1・15日 <sup>つきなみ</sup> 月次祭  
午前10時～  
高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
引き続き  
宗像護国神社  
月命日祭(1日)  
遠 拝(15日)  
午前11時～  
総社祭  
浦安舞 奉奏(1日)  
豊栄舞 奉奏(15日)
- 18日  
午前6時～ 古式祭  
午前6時30分～ 御 座  
午前10時～ 鎮 火祭
- 19日  
午前11時～ 松尾神社祭
- 23日  
午前11時～ 天長祭
- 31日  
午後3時～  
年越しの大祓式 <sup>おひらけ</sup>  
引き続き除夜祭

## 第三十五回 西日本菊花大会 閉幕 内閣総理大臣賞に 鳥巢敬次さん(八女市)

西日本最大の菊花の祭典、西日本菊花大会(主催 宗像大社菊花会(高島雪茂会長)・宗像観光協会(吉武邦彦会長)、後援 福岡県他)が、先月二十三日盛大裡に終了した。

この菊の祭典は昭和の大造営を期に、その翌年の昭和四十七年に第一回大会が開催され、今年で三十五回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約二〇〇人から丹精込めて育てられた菊約三〇〇鉢が出品され、質・量ともに西日本最大である。開催にあたっては、我が子を慈しむがごとく栽培された菊を出品いただいた愛好家の皆様は勿論、宗像地区商工会青年部、宗

像大社菊花会有志の奉仕により、展示用のハウスを設営。また協賛会社各社のトラックで、南は鹿児島、西は長崎、東は山口まで菊を搬入いただき展示した。毎年恒例となった地元玄海小

学生の育てた菊の特別展示に、切花・鉢物による一品競技「九州菊花連盟九州大会」も期間中境内で行われ賑わいをみせた。大会審査は十一月一日、福岡県農業試験場園芸研究所 花き部長 中村新一氏を審査長として、総勢七名で行われた。出品は大輪・盆栽・懸崖・特作・九州山口各県対抗大輪補助特別競技の五部門に分かれ、各々非常に厳しい出品基準、審査基準により



師走になるとなんとなく気持ち気がせわしくなる。当社に於いても正月に向けての準備で忙しくなる。境内の清掃、看板や門松の設置、注連縄の取替えなどたくさんある▼その中でも、本殿等に飾る注連縄の作成は日数を要する。当社における注連縄用の藁は、神田から稲を刈り取り、それを何日か天日干しをして、十一月初旬に地元の氏子総代の方々から藁をすぐってもらう。その藁を大島の中津宮に送り、地元の総代の方に注連縄に調整してもらう。十二月下旬に本殿に取り付けられ完成した注連縄は色、匂い共に新鮮で清々しいものである▼注連縄の起源は天の岩戸開きの段で天照大御神がお出ましになられた時に尻久米繩をその御後方に控き渡して此より以内に還り入りましと申したとあり、神前または神聖・清浄な区域等に掛け渡して、内外を区別するために用いる。神社では鳥居、神門手水舎、拝殿、本殿、社務所、斎館などに見られる▼今、この民族的な文化財とも言える注連縄の製作が高齢化や若年層の都会流出などで維持するのが困難となっている▼先祖から伝承されたよき伝統を守る為にも神職や氏子のみならず、多くの人に関心を持ってもらいたい。

(Y.S)

### 神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31  
電話 福岡(092)651-9456番  
本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入  
電話 (075)341-3341(代)~4番  
(075)343-3341番



### 木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組  
〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

作品の競技がなされ、今年も優秀な出品花が多かった為、優劣つけ難く審査は困難を極めた。

十一月十三日には神島宮司、吉武観光協会会長、高島宗像大社菊花会会長、衆議院議員渡辺具能氏らの来賓に愛好家約一〇〇名が出席し、アクスス玄海で表彰式が行われ、前記の中村部長の総評として「本年は降水量が平年より極端に少なく、平均気温も全ての月で上回り、十月の平均気温は平年より四・五℃も上回った。心配された台風は、九州への上陸は一個と少なかったが、いづれにしても仕上げ時期の開花調節などに苦労されたと思われる。

しかしその中でも大臣賞(上位十



二作品)受賞花は、色彩・調和・盆養とも見事な出来栄で、審査は困難を極めた」と発表された。

期間中境内では、宗像観光協会による、うどん・そば、ビールに地酒イカ焼きなど宗像の特産品を販売する「いっぴく茶屋」も設置され、当大社菊花会による「苗売場」、『お茶席・菊みくじ』と共に、平日でも大変な賑わいを見せた。

また、夜間菊に照明を当て夜菊も観賞いただけるようにし、休日・休前日には日没から午後十一時まで心字池周辺を竹燈でライトアップし、境内を幻想的に演出した。

各賞、受賞者は次の通り(敬称略)

- 内閣総理大臣賞 鳥巢敬次(八女市)
- 農林水産大臣賞 小柳博人(西区)
- 文部科学大臣奨励賞 長谷川良治(城南区)
- 総務大臣賞 重光由紀子(福津市)
- 法務大臣賞 船越順一(大野城市)
- 外務大臣賞 田中昭治(前原市)
- 財務大臣賞 高地茂敏(早良区)
- 厚生労働大臣賞 舛井弘己(嘉穂郡)
- 経済産業大臣賞 佃俊美(田川郡)
- 国土交通大臣賞 富金原正史(宗像市)
- 環境大臣賞 御田良知(太宰府市)
- 内閣官房長官賞 倉田征喜(大野城市)
- 防衛庁長官賞 木下みつ子(大野城市)
- 衆議院議員山崎拓賞 野林伸二(八女市)
- 衆議院議員渡辺具能賞 中尾利夫(小倉南区)
- 宗像大社宮司賞 犬童重光(八幡西区)

- 松尾常喜(大野城市)
- 田畑実志(八幡東区)
- 千々和正信(八幡西区)
- 赤金国弘(田川郡)
- 池田昭(八幡西区)
- 舛井藤子(嘉穂郡)
- 保田直宏(京都郡)
- 浜田豊子(粕屋町)
- 宮地隆治(武雄市)
- 一世勝幸(大村市)
- 緒方迪吉(宇土市)

- 福岡県知事賞
- 佐賀県知事賞
- 熊本県知事賞
- 長崎県知事賞
- 福岡県議会議員賞
- 野村義光(田川市) 宮末実田(川郡)
- 船越順一(大野城市) 白壁富士夫(大野城市)
- 成田カオル(永春町) 豊原男(別府市)
- 田中和夫(遠賀郡) 岡田禎子(大野城市)
- 福岡県町村議会議員賞
- 馬場園警(宗像市) 生武静男(鳥栖市)
- 豊原男(別府市) 舛井弘己(嘉穂郡)
- 時田義光(鳥栖市) 宮野克己(朝倉郡)
- 松野正徳(小倉南区) 宮原善枝(宗像市)
- 全日本菊花連盟賞
- 西山時秋(司馬郡) 堀井朝人(八幡東区)
- 九州・山口花卉園芸連絡協議会賞
- 古川清茂(杵島郡) 安田剛(鹿兒島県) 始良郡)
- 白壁富士夫(大野城市) 坂本栄(中間市)
- 九州花卉卸売市場連合会賞
- 高橋伸紀(小倉南区) 松本和美(行橋市)
- 高橋良和(遠賀郡) 豊原文代(別府市)
- 福岡県農業協同組合中央会賞
- 林田憲治(田川市) 占部正彦(宗像市)
- 野中昭夫(西松浦郡) 中江良枝(宗像市)
- (社)福岡県観光連盟賞
- 深川ユキ子(小倉南区) 丹下民平(戸畑区)
- 真鍋義昭(戸畑区) 竹ノ内忍(行橋市)
- 福岡県農林事務所賞
- 秋山住人(八幡東区) 陶山正利(太宰府市)
- 坪根雪彌(小倉南区) 上野幸隆(宗像市)

- 福岡県中小企業経営者協会賞
- 中垣静男(三井郡) 下村運(遠賀町)
- 佐藤秀俊(行橋市) 園田秋博(宇土市)
- 福岡県産業振興協議会賞
- 田中正一(甘木市) 千々和正信(八幡西区)
- 妹川尚生(基山町) 渡部享典(小倉南区)
- 九州旅客鉄道社長賞
- 永田ツルミ(宗像市) 生武静男(鳥栖市)
- 福岡県花卉園芸連合会賞
- 岸本敏彦(若松区) 増本一之(小倉南区)
- 山崎清己(築上郡) 石田桂子(宗像市)
- 福岡県花卉市場協議会賞
- 馬場正晴(東彼杵郡) 高山健次(嘉穂郡)
- 松原安次郎(八幡東区) 田中正美(甘木市)
- 粕屋地区市町長協議会賞
- 関本和代(嘉穂郡) 博文(遠賀町)
- 堀井朝人(八幡東区) 青木利康(小倉南区)
- 遠賀郡町長会々賞
- 許斐保飯塚市伏見喜久男(嘉穂郡)
- 宗像地区市長・議長協議会賞
- 松尾常喜(大野城市) 永田ツルミ(宗像市)
- 社家間サツキ(宗像市) 大庭笑子(鞍手郡)
- 遠賀町長賞
- 緒方迪吉(宇土市) 豊原文代(別府市)
- 芦屋町長賞
- 園田秋博(宇土市) 山領松行(杵島郡)
- 水巻町長賞
- 栗田義信(鞍手郡) 佐野進(小倉南区)
- 古賀市長賞
- 富中千寿(行橋市) 竹ノ内忍(行橋市)
- 宗像市長賞
- 古川美代子(小倉南区) 江田常夫(早良区)
- 福津市長賞
- 安田剛(鹿兒島県) 始良郡) 関本紘一(嘉穂郡)
- 宗像市議会賞
- 桑野房子(鞍手郡) 妹川尚生(基山町)
- 安部由夫(大分市) 上綱協倉子(宗像市)
- 福津市議会賞
- 長谷川巖(宗像市) 鶴田弘(鹿兒島県) 鹿屋市)

- 福岡県中小企業経営者協会賞
- 中垣静男(三井郡) 下村運(遠賀町)
- 佐藤秀俊(行橋市) 園田秋博(宇土市)
- 福岡県産業振興協議会賞
- 田中正一(甘木市) 千々和正信(八幡西区)
- 妹川尚生(基山町) 渡部享典(小倉南区)
- 九州旅客鉄道社長賞
- 永田ツルミ(宗像市) 生武静男(鳥栖市)
- 福岡県花卉園芸連合会賞
- 岸本敏彦(若松区) 増本一之(小倉南区)
- 山崎清己(築上郡) 石田桂子(宗像市)
- 福岡県花卉市場協議会賞
- 馬場正晴(東彼杵郡) 高山健次(嘉穂郡)
- 松原安次郎(八幡東区) 田中正美(甘木市)
- 粕屋地区市町長協議会賞
- 関本和代(嘉穂郡) 博文(遠賀町)
- 堀井朝人(八幡東区) 青木利康(小倉南区)
- 遠賀郡町長会々賞
- 許斐保飯塚市伏見喜久男(嘉穂郡)
- 宗像地区市長・議長協議会賞
- 松尾常喜(大野城市) 永田ツルミ(宗像市)
- 社家間サツキ(宗像市) 大庭笑子(鞍手郡)
- 遠賀町長賞
- 緒方迪吉(宇土市) 豊原文代(別府市)
- 芦屋町長賞
- 園田秋博(宇土市) 山領松行(杵島郡)
- 水巻町長賞
- 栗田義信(鞍手郡) 佐野進(小倉南区)
- 古賀市長賞
- 富中千寿(行橋市) 竹ノ内忍(行橋市)
- 宗像市長賞
- 古川美代子(小倉南区) 江田常夫(早良区)
- 福津市長賞
- 安田剛(鹿兒島県) 始良郡) 関本紘一(嘉穂郡)
- 宗像市議会賞
- 桑野房子(鞍手郡) 妹川尚生(基山町)
- 安部由夫(大分市) 上綱協倉子(宗像市)
- 福津市議会賞
- 長谷川巖(宗像市) 鶴田弘(鹿兒島県) 鹿屋市)



宗像市教育委員会  
井手直義(太宰府市) 石原睦生(都城市)  
緒方慶子(大野城市) 大塚孝二(大分市)  
宗像観光協会賞  
山崎信男(速見郡) 村上和雄(大野城市)  
原聰(鳥栖市) 後藤勝司(天分市)  
宗像大社菊花会賞  
御田良知(太宰府市) 野村義光(田川市)  
川崎新一(北諸県郡) 石原睦生(都城市)

※以下、受賞者につきましては、紙面の都合上割愛させていただきます。  
受賞された方々の更なる御健勝を御祈念申し上げます。

# 九州国立博物館開館

去る十月十五日、九州国立博物館開館記念式典が開かれ東京、奈良、京都に次ぐ全国で四番目の国立博物館として、古都・太宰府の地に誕生。太宰府に鎮西博物館建設構想が浮上したのは明治二十六年。そして同三十二年、美術評論家の岡倉天心が九州博物館の設置を提唱、以来百年

以上をわたる長い歴史が始まる。この博物館開館が「百年の夢」と称される所以である。同博物館は「日本文化の形成をアジア史的観点からとらえる」を基本コンセプトとし、アジア諸国との文化交流の一大拠点を目指している。常設展に「海の道、アジアの路」を



関係者によるテープカット

設け、旧石器時代から近世末期にかけてのアジアとの文化交流をたどる。沖ノ島は、古代より日本と大陸を結ぶ海上交通の要衝として位置づけられ、航海の安全を祈る祭祀が連綿と行われてきた。この祭祀跡から出土した「金銅製龍頭」「三角縁神獸鏡」など国宝・重文一二三点を出陳、弥生時代、古墳時代コーナーに展覧されている。又、館内の映像室では、最先端の超高精細映像であるスーパーハイビジョンで沖ノ島を紹介、



今でも毎日混雑しているようです

臨場感溢れる映像でその場に居るような疑似体験を楽しむ事ができる。開館記念式典には、中山成彬文部科学相をはじめ中国、韓国の博物館館長ら約一〇〇〇人が出席、河合隼雄文化庁長官は「一人一人が文化に触れることで社会が元気になる文化力の発信を九州からも期待している」と挨拶を行い、麻生渡福岡県知事は岡倉天心が明治三十二年に九州国立博物館の必要性を提唱したことに触れ「九州の人々にとって大きな夢だった」と誘致活動を振り返った。引き続きテープカットが行われ、正に「百年の夢」が叶った瞬間だった。

## 古式祭の御案内

八〇〇年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

**日時** 十二月十八日(日)  
午前六時  
**祭典** 宗像大社本殿  
**御座** 午前六時三〇分～一番座  
(一座〓五〇名づつ、五番座まで)

**会場** 宗像大社清明殿  
**御座料** 一人〓一、〇〇〇円

御座券は当日午前六時～販売致します。(例年午前五時三〇分位から多くの方が並び始めます。)

古式祭とは、神職・氏子・崇敬者全ての民が、宗像三柱大神様の神恩に感謝して「御座」を開き、御神前でその年収穫された米で作った食事を神様と共にいただく「神人和楽」の集いです。

この「御座」では蜜柑の原種である「九年母」、宗像市江口の浜

でこの時期しか採取出来ない「ゲバサ藻」、スボ(稲穂の藁)を挿したご飯など、現代ではなかなか口にする事の出来ない、珍しいお膳が準備されます。また会食後は、翁面・神盃・御札などが授与される「福引き」も行われます。例年、一座〓五〇名で五番座まで、約二五〇名の方が参列されます。



古式祭の様子

# 第三十四回 宗像大社献詠短歌大会

## 福岡県知事賞に宗像市の小方玲子さん

三十四回宗像大社献詠短歌大会（主催 宗像大社歌会実行委員会・毎日新聞社、後援 福岡県他）が、十一月五日（土）午前十時から当大社清明殿で、開催された。選者には今大会講師の末房長明先生、生崎山 源太郎先生、中西輝磨先生、

大野展男先生、そして前回講師をお務めいただいた青木昭子先生の五名の先生方をお招きした。当日は快晴、境内では菊花展が開催されており七五三詣、観菊者で参加は溢れ変える中、約六〇名の参加があった。



まず、今回事務局に寄せられた参加者直筆の詠草一六三首を神前に捧げ神事を行い、参加者は神妙な面持ちで臨んだ。そして高向権宮司がこの短歌大会の歴史を交えた挨拶を行った。続いては、例年参加者が楽しみにしている講演で本年は太宰府市より末房長明先生をお招きし、「万葉に詠まれた九州の山岳」と題した講演を拝聴した。先生は警察出身

の方で、大牟田署長を最後に退官され、現在西鉄の自動車事業部交通対策室長を勤められている。歌は福岡県警勤務の昭和三十三年から持田勝穂先生に師事し始められ、「未来」会員、「電」同人で、福岡県歌人会副会長、福岡市歌人会副会長兼事務局長も務められている。講演は、万葉集の中でも九州各地の山にまつわる歌は勿論、当地宗像で詠まれた歌も取り上げお話しただき、現在のウォーキングブームもあつてか、参加者は真剣に聞き入っていた。

午後からは、選者それぞれが担当する歌を順番に批評していただき、表彰式を行い無事に閉幕した。入選歌並びに各賞受賞者は次の通り（敬称略）

- 【特別賞】  
福岡県知事賞  
宮本 司（山口県長門市）  
大太鼓たたく幼児足腰揺らし調子を整えてをり

- 福岡県教育委員会賞  
井上かつみ（福津市）  
クレソンとふひびきがよくていくたびもつづやいてみる口中涼し

- 宗像市長賞  
浜口 秋雄（中間市）  
夕映えのテトラポットに土用波ひとつら列なりに砕けてしぶく



- 宗像市教育委員会賞  
今泉 洋子（佐賀県佐賀市）  
ふるさとの町の名残す「北方」の駅は無人駅つばくら燕の飛ぶ

- 毎日新聞社特別賞  
森 龍子（宗像市）  
生産者は女の名前朝市の袋野菜に蝶来て止まる

- 【選者賞】  
宗像大社歌会会長賞  
村松 初子（春日市）  
宗像大社氏子会会長賞  
宮原ますみ（福岡市）  
宗像大社宮司賞  
尾羽根孝子（福岡市）  
宗像大社賞  
百崎 ひさ（福岡市）



- 毎日新聞社賞  
高田 浩志（大野城市）  
永富 臻（宗像市）  
梅木 和子（春日市）  
田中登美子（福岡市）  
加藤 栄子（遠賀郡遠賀町）  
田志紀代子（宗像市）



講師の末房長明先生

(続)

# 浜の奇物

199

いしい ただし



ンス「海から寄り着いたモノたちが語りかける世界」展が、三期にわたって行われている。

前期が十月二十九日から十一月二十五日までの「海から寄り着いた神仏」、中期展が平成一八年一月四日から二月五日までの「現代の漂着物」、後期展が平成一八年二月十日から三月五日までの「漂着物でアート」である。

その前期展へ行ってきた。資料館は高松市の中心部から離れた五色台の一面にある。館からは眺望もよく、瀬戸内海が一望できる。

十月・十一月は全国的に文化祭や文化行事が目白押しである。福岡県も国博の開館で、資料館や博物館での企画展や行事が行われている。

さて香川県高松市の瀬戸内海歴史民俗資料館では十月二十九日から一八年の三月五日まで「風と潮のロマン

建物物が五十年に日本建築学会賞を受賞している。まず石積みみの城郭を思わせる重なる建物に圧倒された。

収集品がすごい。五二年には「瀬戸内海及び周辺地域の漁撈用具」一、二、八四三点。平成五年には「



瀬戸内海の船図及び船大工用具」二、八一三点が重要有形民俗的文化財の指定を受けている。質量ともに展示内容が充実している。

今回の「海から寄り着いた神仏」では、瀬戸内海ならではの漂着がある。重文の志度寺縁起（写真展示）は五世紀中頃、琵琶湖の北、白蓮華谷に一本の太木が流れ着く。木は不思議な光とともに、なんとも香わしい匂いを漂わせていた。その後、流れて太木は太津へ、そこで木が傷けられたりしたため、住人達の家が焼けたり、病人がでて祟ったため、流され、琵琶湖から宇治を下り、淀の津にでて、七世紀の中頃に志度海に漂着し祀られるという流離譚である。金毘羅

山名勝団会は金毘羅様に奉納された流し樽や流し木が波間に漂う場面が描かれているし、金刀比羅宮にはその樽や流し木、流し舟が蔵されているものも展示されていた。

瀬戸内海はむかしから漁船の網にノウマン象や、野牛、鹿などの化石がかかる。それは鬼の角とか鬼の腕ともいわれていたが、その由来の文書や化石類、朝鮮系の石剣、須恵器、古備前の壺類の海揚りもあつた。亀の浮木は亀が流木で遊んでいると、漁師はそれを持ち帰り祭ると大漁になるといつている。亀の浮木やそれにまつわる絵馬は、はじめて見た。

一つのテーマを三期に分けて、長期間にわたる展示を行っている。今回の企画展は新しい試みであろう。一見の価値がある。

お問い合わせ先  
瀬戸内海歴史民俗資料館  
TEL 087-881-4707



## 江口富士子先生 勇退



第一回大会から選者を務められている江口富士子先生が、御高齢ということでご勇退された。先生は大正二年佐賀県の武雄市生まれで、御年九十二歳。

教師をされていた御主人(故人)の関係で、三十代までを韓国で過ごされ、終戦後福岡市内に移り住む。現在は娘さん夫婦と共に、福岡市南区のご自宅で静養されている。昭和六十三年の宮中歌会始では、日本の稲作を歌った左記の歌が入選されている。

三連の

水車回りに

筑後野の

田毎に満つる

水かがやけり

# WBA(フェザー級)世界挑戦あたり プロボクサー越本隆志氏安全祈願祭

## プロ十四年目の集大成に

境内で菊花の咲き誇る十一月九日午前十一時三十分、福津市在住でボクシング東洋太平洋フェザー級王者の越本隆志氏(三十四歳)が来社され、安全・必勝祈願を行われた。

同選手は来年一月二十九日に福岡市で、世界ボクシング評議会(WB

A)フェザー級王者で韓国の池仁珍

(三十二歳)との世界タイトルマッチへの挑戦が決定。本格的なトレーニングに入るにあたり、決意を新たにする誓いのため、所属する『フク

オカ ボクシング ジム』会長で父

親の英武さん(六十二歳)とともに

来社され祈願祭を行った。

越本選手は「今回の参拝は試合が決定した時と同様腹をくくるきつかけとなった。プロ十四年目の集大成として、地元福岡で何が何でも結果を出したい。」と決意を述べられていた。

英武さんは「勝つための練習を全てさせ、リングに上げることが私の役割。これから本格的な練習に入る

越本隆志選手と、父であり、ジムの会長でもある越本英武さん。

ので、必勝祈願とともに練習中の安全を祈った」と語り、祭典中には感極まったと、ハンカチで目頭を押さえる場面もあった。



自身二度目の世界挑戦。今回は平成十二年にフレディ・ノーウッド(米国)に九回KO負け。その後テクニクを磨き、翌年九月に東洋太平洋王座を獲得、今年一月まで七度防衛している。今回勝てば、九州初の世界王座となり、輪島功一さんの三十二歳九ヶ月を抜いて日本人最高年齢の世界王者獲得となる。

越本選手のトレーニング中の安全と、世界挑戦の勝利を心より御祈念申し上げます。

## 除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の「罪」・「穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。



除夜祭・大祓神事の様子

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年に当大社で行われてきた何百回という祭典の中でも最後の祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

日時 12月31日 午後3時～  
場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに「人形」(男=白、女=赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、『車型』にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。

**厄年**

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった『厄』にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は『大厄』とされ、その前後の年も『前厄・後厄』といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習ではありますが、厄年を迎えること我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

**八方塞**

陰陽道での方向に向かって事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめの方は要注意と言われています。

**暗剣殺**

「九星術」でその年の五黄土星と相対する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

**厄年年齢表**

昭和41年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和36年	昭和29年	昭和27年	昭和22年	昭和21年	昭和20年	昭和18年	昭和11年	昭和9年	昭和2年	大正14年	大正7年	大正5年	生まれ年
前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)・暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
平成11年	平成9年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和58年	昭和57年	昭和56年	昭和54年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和45年	昭和44年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)・暗剣殺	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	厄

**宗像大社初詣  
交通規制のお知らせ**

期間	凡例
●平成17年 12月31日午後9時から 平成18年 1月1日 午後9時まで	← 宗像大社順路 ⇐ 一方通行 歩行者用道路
●平成18年 1月2日～1月4日 午前9時から午後7時まで ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。	⊘ 車両進入禁止 交通信号機 駐 車 場

初詣期間中、交通の安全と円滑を図るため、臨時交通規制を実施します。皆様のご協力をお願い致します。



# 第五三二回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



宗像市 日ノ里 大和 美由紀

水音はかすかとなりし川原をさわさわと萩の風吹く

(評) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる 藤原敏行にも通ずる繊細なうた。さわさわの擬音がいい。

宗像市 池田 森 龍子

夕日受け窓際赤し厨への笊の木通は強く匂ひて

(評) 弟が見舞ひと庭より挽ぎきたる赤紫の木通の一類 他十首近い木通を詠んだ宮村二がよきこびそう一首である。私も山でむさぶり食べた少年時代を思い出、なつかしい。

宗像市 日ノ里 石松 弘次

大鯛を塩にまぶして鉄鍋に寝かせ焚火すシニアキャンプ

(評) 玄海青年の家の詞書のある一首だが、シニアの人達のよろこびが「大鯛」の具体でひしひしと伝わる。

福津市 在自 佐々木和彦

冷え込みの厳しくなりて近くゆく旅の紅茶想はれてくる

(評) 暑から秋冷へと俄に変わった昨今。旅への期待が一段高まった作者である。

福津市 中央 池浦 千鶴子

生垣に冬枯れそめし朝顔の小さく青くいちりん咲けり

(評) ひたすらに咲きのぼれるは讀ふべし朝をつゆけき紺の朝顔 小中英之は勢い盛んなる時の花、池浦さんは衰えながらも懸命に花を咲かせる朝顔を詠い心が深い。

宗像市 田野 森 甲子

白き羽広げて咲ける孔雀草大き揚羽の止まり離れず

(評) 花と蝶の生命の交歓の世界である。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

取替えし電池に時計は動けども友よみがえらする電池など無し

(評) 友を悼む心が、「電池などなし」の一句に万感がこもって迫る。

福津市 中央 中村 勇

覚めぎはのおぼろな頭にひびきくる新聞配りのバイクの音が

(評) 朝刊の配達時間は朝四時過ぎである事を思えば、作者の日常の姿がおおよそ見えてくる

福岡市 南区 井田 有久衣

いつの日か杖に頼らず歩行する吾を夢みて今日もリハビリ

(評) 細杖をアクセサリにするなどと魔法使ひのばあさんのやうだ 宮 英子と詠う英子さんは八十九歳。負けずに頑張つて。

うきは市 浮羽町 向 則正

わが部屋に白き菊花を飾りたり慰霊式にて献せしものを

(評) 式が済んでもなほ、逝つた者に心を寄せるやさしい作者である。

宗像市 鐘崎 安永 久子

数へては当るやも縫うよりは、糸通す間の長き此のじれつたさ

(評) 針の穴に糸を通す、じれつたさを詠んだのだろうが、上句の状況が今一つはつきりしないのが残念。

宗像市 大井 木原 ふさ子

傘をなす大木榎の木の根の張りに傾ぶく石の佛をおがむ

(評) 上句の榎の描写を今少しすつきりすれば、より良い一首なるのだが、惜しい。

宗像市 朝野 藤井 浩子

白鷺と鴨数十羽が羽根休め琵琶湖の岸に夕暮れ迫る

(評) 折角の情景なのに名詞が多過ぎて主体は何なのか判らないのが残念。

宗像市 大島 杉田 禮子

浦安の舞い拜しつゝ、この島の倅せ願う秋の祭りに

(評) 「倅せ願う」まで言わない方がいい。短歌は沈黙の文学と言われている。

選者詠

苦勞して拓きしならん田も畑も呆気なし藪の山に戻れり

わづかに田の面影のこす森かげの藪のなかり雉子の声する

杖つくは楽とし思ふ杖つくはみじめと思ふ突くかずに歩む



## 宗像大社歌会 俳句作品集(五〇七)

光岡 佐藤純一  
金魚草見て微笑みまをうかべをり

光岡 白土凌一  
バスハイク皆なで廻るみかん狩り

日ノ里 花田いつ枝  
コスモスに埋れコスモス見てをらず

光岡 井上嘉治  
御堂筋銀杏拾うは皆無口

東郷 田中憲象  
山紅葉豆腐の桶に浮き沈む

宗像市 東郷 宗風社俳句会  
乱鴛や日中日韓反り合はず

吉田 杏子  
人の言葉話すインコや秋さやか

三浦 美千代  
月仰ぐうさぎ踊れと願ひをり

田中 雨葉  
我が庭の縁側で足る良夜かな

木原 房子  
山の端に早も夕月裏戸締む

### 編集後記

菊花展期間中、極め、現在は奉納という形で毎年菊を出品していた▼印象的だったのが十七歳で志願出征し、沈没により移った船は四隻。「多くの友の死を目にしてきた。菊作りを始めたのはそれがきっかけだが、今でも慰霊の気持ちをもつて菊を作っている。生きている限り菊を作り続ける」▼靖国問題で揺れる政界、それに関するコメントはなかったが、当事者の気持ちというのはいまだに計り知れない。この方たちが生あるうちに、何らかの結論を出してほしい。当事者のいなくなった後で決まっても、本意の意味で何も決まらなかったことにはならないはずである。(MO)

宗像大社事務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 ジーエータップ  
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円